

意見	対応
■知床五湖地域に関する意見	
○歩道	
<ul style="list-style-type: none"> ・高架木道の延長を具体化すべき。 ・地上歩道の利用調整地区化は高架木道への分散効果を見据え、慎重にすべき。 ・木道が足が挟まり危険。補修時に配慮すべき。 ・高架木道だけで満足しろというのは観光客に失礼。 	<p>高架木道の延長の計画については、五湖全体の利用のあり方と併せて検討を進めていきます。</p> <p>地上歩道の利用に関してルールを定めていくことは自然環境への影響を抑え、安全な利用を確保していくために必要であり、高架木道の整備のあり方と併せて検討されるべき課題です。</p> <p>木道の整備・管理にあたっては、御指摘にも十分留意します。</p> <p>高架木道以外に知床半島中央部地区には様々な利用地域や楽しみ方がありますが、知床を訪れる人々にこれらを積極的に紹介していくことは重要だと認識しています。また、高架木道の延長を含め、利用者の満足度を高めるための検討を進めていきます。</p>
○看板	
<ul style="list-style-type: none"> ・高架木道の利用促進、混雑解消のため五湖内の看板の再整備をすべき。 	<p>混雑の原因となる看板表示等については、随時改善をしていくことが重要であり、御指摘も踏まえて改善に努めます。</p>
○その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・五湖だけでなく、利用を分散ができるよう知床国立公園を堪能できる他の場を設定すべき。 ・他の地区の利用を拡大するならば、環境等に影響が生じないようにしっかりとビジョンをたてるべき。 	<p>実施計画においては、知床五湖地域への利用集中の緩和機能も考慮し、ホロボツ園地における施設の機能充実を検討項目として掲げています。</p> <p>御指摘の点は重要と考えており、利用適正化検討会議等における検討においても重視しています。</p>
■羅臼湖地域に関する意見	
○歩道	
<ul style="list-style-type: none"> ・長靴利用をお願いするのではなく、木道を整備すべき。 ・羅臼湖の木道整備は早急にすべき。 ・歩道の再整備を検討すべき。 	<p>羅臼湖については、できるだけ手を加えずに原生的な自然環境を訪れる場所としての雰囲気確保することも重要であり、木道の整備により自然環境への影響を抑えていくこととのバランスをとることが重要です。</p>
○アクセス	
<ul style="list-style-type: none"> ・バス停の位置を歩道の入り口に近くすべき。 ・駐車帯を確保することにより、より歩道の入り口近くにバス停を設置すべき。 ・知床峠の駐車場から羅臼湖への歩道の入り口まで、安全に歩けるよう歩道を設置すべき。 ・歩道入り口に20台程度の駐車帯を整備すべき。 	<p>バス停は関係行政機関と協議し、安全面を考慮して現在の位置に設定されています。また、羅臼湖へのアプローチの方法と必要な整備については、引き続き、羅臼湖の望ましい利用のあり方を検討していくなかで具体化していくことが重要と考えます。</p> <p>20台程度の駐車帯の場所を確保することは困難であり、また、単に整備するだけではあふれた車による渋滞の深刻化を招くおそれがあります。</p>
○トイレ	
<ul style="list-style-type: none"> ・入り口道路脇付近にバイオトイレを設置すべき。 ・ビジターセンターでモニターの携帯トイレの販売をすべき。 ・女性のことも配慮した施設整備を。(トイレ整備) 	<p>トイレの設置の必要性については、利用の実態を把握し、望ましい利用のあり方を検討していく中で整理すべき課題です。携帯トイレの利用促進は積極的に検討が必要な事項ですが、回収処理の体制等も併せて考慮することが必要です。</p>
○その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・歩道入り口付近に非常時対応の通信連絡機器の設置を検討すべき。 	<p>羅臼湖歩道の利用実態や維持管理コストを考慮すると、整備の緊急性は高くないと考えています。</p>

意見	対応
■知床連山地域に関する意見	
○トイレ	
<ul style="list-style-type: none"> ・羅臼岳ではし尿の問題がすでに顕著であり、早急に対応すべき。 ・携帯トイレでなく、きちんとしたトイレを設置すべき。 ・利用者にトイレの利用負担を検討すべき。 	<p>山岳部におけるトイレの設置、携帯トイレの携行の促進等については、利用の現状を十分に把握し、実現可能性、それぞれの対策のメリット、デメリット等を十分に整理した上で、検討していくことが重要です。</p>
■カムイワッカ地域に関する意見	
なし	
■全般的な事項に対する意見	
○計画に関して	
<ul style="list-style-type: none"> ・便利な利用を優先するのではなく自然の保護を第一にすべき。 ・中庸を取るのではなく環境省としてのビジョンを明確に示すべし。 ・各地域の適正な利用人数を設定すべき。 	<p>地域の資源としても、自然環境を保全することが重要であるとの前提に立ち、利用の適正化を図っていくことが重要と考えています。</p> <p>関係機関と情報や課題を共有しつつ、御指摘の点を踏まえて対応していきます。</p> <p>環境への影響や利用の実態を踏まえて、必要な地域については適正な利用者数を定めることも必要と考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・急激な規制は避け、利用の工夫で混雑の緩和を検討すべき。 ・各地区での利用方法は異なり、利用の仕方、ガイドシステムのあり方はそれぞれ検討すべき。 	<p>規制だけでなく、利用の工夫による混雑の緩和手法も検討しています。</p> <p>御指摘の点は重要と考えています。</p>
○整備に関して	
<ul style="list-style-type: none"> ・数年前からの進捗が感じられず、自然が破壊されることに危機感がある。早急に対応すべき。 ・環境省から、施設管理者(北海道、林野庁等)に再整備等のはたらきかけを積極的にすべき。 	<p>御指摘の点は重要と考えています。</p> <p>関係機関が一带となった取組みを推進する場として、利用適正化検討会議が設置されています。引き続き、利用の実態、整備の緊急性等を踏まえ、適切な整備・管理のあり方について関係機関による情報交換を行っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・関係機関が縦割りではなく共同で検討すべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・地元のボランティアを活用した整備を推進すべき。 	<p>今後の整備に当たって参考にさせていただきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・モニター的に少しずつでも整備を進めるべき。 	
<ul style="list-style-type: none"> ・整備において多少の環境を破壊しても、他への破壊拡大を防げるのならそれも一つの方法。(トイレ、歩道整備に関して) 	<p>地域の自然環境の保全を重視しつつ、御指摘の点も踏まえて検討を進めていきます。</p>
○検討会に関して	
<ul style="list-style-type: none"> ・検討会の委員に地元の人間を増やすべき。 	<p>利用適正化検討会議には、多くの地元の方々の代表者に入っています。その他、このような説明会等の機会を設けて御意見を伺うとともに、関係機関でも随時御意見を承っています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・地元意見は少数であり意見が通らない危機感がある。 	<p>利用適正化検討会議での意志決定は多数決を行うことを前提としていません。様々な御意見を尊重して意思決定を行っていきます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・遊漁船組合の示した提案に対して方針を早急に示して欲しい 	<p>先端部地区の利用の適正化に関する検討の中で対応していくべきものと考えています。</p>
○その他	
<ul style="list-style-type: none"> ・地元が自慢できるものが、観光客にとっても魅力となる。 	<p>御指摘の点は重要と考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・本省の上役に現地を見てもらうべき。 	<p>環境省においても関係する多くの職員が、知床を訪問し、現場の実態を見るよう努めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・先端部も説明会を実施して欲しい。 	<p>先端部についても必要に応じて説明の場を設けたいと考えています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・先端部は羅臼側、斜里側で利用の方法が違う。それぞれのルールがあるのでは。 	<p>御指摘の点は重要と考えており、環境や利用実態の違いから異なるルールが設けられることはあります。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・知床専任の担当者を設置して欲しい。(異動がない) 	<p>行政機関として、検討にあたっては継続性・一貫性を持つことを重視して検討を進めています。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・世界的な観光地としての位置づけから、羅臼沖での調査捕鯨は実施すべきでない。 	<p>まずは、地域の方々における共通認識の醸成が重要だと考えます。</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・捕鯨は文化であり、恥ずべきものではないはず。 	